御　　礼

このたびは，自主公開授業研究会に参加いただき誠にありがとうございました。

学力向上を目指す授業改善への取組として，国語科・算数科などの特定教科の研修が広がりをみせる中，本校は３年前から生活科・総合的な学習の時間を研究教科・領域にして研究を進めてきました。昨年度までの２年間は，「探究的な学びを通して深く学び合う子どもの育成」をテーマとし，探究のプロセスを大事にすることでより深い学びと自己肯定感の高まりにつなげたいと考え実践してきました。そして，他者評価に加えて授業を通して得られる達成感などのよろこびが，自尊感情や自己肯定感を高める手応えを感じてきました。これらの成果が認められ 2020　年度教育実践審査会「学校教育実践 最優秀賞」をいただけたことは，私たちにとって大きな励みとなりました。

しかし，研究を続ければ続けるほど，単元構想や単元開発の難しさに直面しました。特に，探究的な学びが「深い学び」となっているのか，そのような単元構想はどうあればよいのか試行錯誤をくり返す中，自信を失いかけたとき，石井先生の研究や著作が私たちを「深い学び」に誘う道標となりました。教師自らが，子どもたちと共に学びを深め，教材の新しい価値を見いだそうとする営み（教材と深く対話する）が大切であること，教材自体の豊かさや深さを吟味すること等，大変参考になりました。何もないところから，単元の全てを創り上げることは容易なことではありません。現在，単元づくりの一つの方法として，単元を仮にスタートさせながら，探究の過程で発見した教材や対象の新たな価値などの肉付けを行い，深い学びのある単元構想に更新していく取組を行っています。手がかりとなる具体的な子どもたちの活動や記録があることで，教員同士の協働的な議論に結びつけやすいということもわかってきました。

さて，今回の自主公開授業研究会のねらいのもう一つは，通級指導の授業をひらくことでした。市内における対象児童数の増加に伴い，指導者の育成が急務と考えています。指導者の指導技術の向上はもちろんのこと，より多くの先生方に通級指導について関心をもっていただくためにも授業を公開したいと考えておりました。今回，言語聴覚士のみなさんをはじめ多くの先生方にお越しをいただけたことは，一定の役割を果たすことができたものと思っておりますし，今後も続けていく必要性を感じています。

教育を成立させるのは，「感化と共感（教師への信頼と尊敬）」であり，子どもたちの達成感などのよろこびの感覚は，「わかった」「できた」という子ども自身の認識と教師の「すごい」「よくできたね」「しっかり努力した」「もう一息」といった教育愛の発露があって感得されるインタラクティブ（相互作用・対話的）なものと言われています。(「授業を創る 2013~2016　飯舘村教育委員会が各学校に伝えてきたこと」より一部加筆）本日の授業を通して本校が目指す「深い学び」や「よろこびのある授業」にどこまで近づけているか，まだ先は遠い状況であろうと考えておりますが，ゴールは見えてきたのではないかと考えております（ワンサイクル目のゴールかもしれませんが・・・)。ご参会の皆様には，本校の研究についてご理解いただくと共に，忌憚のないご意見ご指導をお願いいたします。

結びに，コロナ禍での開催にご理解をいただくとともに，お忙しい中，本校の研究推進にあたって多大なるご指導ご助言，そして本日の講演をご快諾いただきました講師の石井英真先生及び指導助言者の皆様，日頃より本校教育をあたたかく見守り支えていただいております保護者の皆様，第四地区の皆様に深く感謝を申し上げ，あいさつといたします。

令和２年 12 月（春待月）

福島市立福島第四小学校長 渡邊 浩人